

植物41 トカラの歩き方(3)

6月5日まで開催されているの企画展「トカラの歩き方」では、トカラ列島の自然や文化に焦点を当て、各島の見所を紹介しています。今回は、トカラ列島の特徴的な植物を紹介します。

諏訪之瀬島ナベダオのツクシヤマザクラ群

諏訪之瀬島の南部、標高300mほどに、ナベダオと呼ばれる鍋底のような、古い火口跡の窪地があります。この周辺には根元から枝分かれした、特徴的なツクシヤマザクラ群が見られます。ツクシヤマザクラは全国的に分布しているヤマザクラの一種(変種)で、花が白く、緑色の新芽が特徴です。九州西部、南部の海岸近くに分布しており、諏訪之瀬島が自生南限になっています。

ナベダオのツクシヤマザクラは、台風の影響で垂直方向の成長が妨げられ、根元から複数の幹が広がったと考えられています。中には根回り5mを超える巨木も見られ、花期には見応えのある光景が広がります。令和4年4月には「諏訪之瀬島ナベダオのツクシヤマザクラ群」として、県の天然記念物に指定されました。



根元から枝分かれしたツクシヤマザクラの大木



美しい白い花と緑色の新芽が同時期に見られる

村花マルバサツキ

ツツジ科のマルバサツキは十島村の村花で、九州南部から屋久島、トカラ列島にかけて分布しています。花期は、人の住む低地ではサツキの名前のおり、5月頃ですが、諏訪之瀬島や中之島の高所では、7~8月頃に開花します。薄いピンクの花は大変美しく、多くの園芸品種の作出にも利用されています。



花期には山肌をピンクに染めるマルバサツキの花

宝島女神山の森林植物群落

自生する樹木の種類は標高や地形によって変化しますが、人の住む地域では開発や生活への利用などによって伐採されることが多いため、自然の状態に残っていることはほとんどありません。しかし、宝島の女神山(標高130m)は、島民の聖地として古い時代から、木々の伐採が厳しく禁じられてきたため、山麓部から山頂部にかけてタブノキ、ビロウ、ウバメガシ林と変化する手つかずの森が残っています。この森は、トカラ列島の原生林の状態を示す大変貴重なもので、国の天然記念物に指定されています。



手つかずの植生が残る女神山